

みずほCustomer Desk Report 2023/04/17号 (As of 2023/04/14)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	132.53
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	132.53	1.1052	146.41	1.2521	0.6784
SYD-NY High	133.84	1.1075	147.15	1.2545	0.6808
SYD-NY Low	132.18	1.0973	146.26	1.2399	0.6695
NY 5:00 PM	133.75	1.0988	147.05	1.2414	0.6709
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	33,886.47	▲ 143.22	日本2年債	▲0.0500%	0.0000%
NASDAQ	12,123.47	▲ 42.81	日本10年債	0.4600%	0.0000%
S&P	4,137.64	▲ 8.58	米国2年債	4.0968%	0.1306%
日経平均	28,493.47	336.50	米国5年債	3.6030%	0.1036%
TOPIX	2,018.72	10.79	米国10年債	3.5138%	0.0669%
シカゴ日経先物	28,530.00	90.00	独10年債	2.4300%	0.0615%
ロンドンFT	7,871.91	28.53	英10年債	3.6570%	0.0875%
DAX	15,807.50	78.04	豪10年債	3.3350%	0.0470%
ハンセン指数	20,438.81	94.33	USDJPY 1M Vol	10.84%	0.03%
上海総合	3,338.15	19.79	USDJPY 3M Vol	10.66%	0.05%
NY金	2,015.80	▲ 39.50	USDJPY 6M Vol	10.60%	0.01%
WTI	82.52	0.36	USDJPY 1M 25RR	▲1.52%	Yen Call Over
CRB指数	276.22	0.63	EURJPY 3M Vol	10.51%	0.05%
ドルインデックス	101.55	0.54	EURJPY 6M Vol	10.65%	0.05%

東京	東京時間のドル円は132.53レベルでオープン。実質五・十日であるため実需の買いもあってか、仲値前には一時132.64まで上昇したものの勢いは続かず。その後は前日の米3月PPIの結果を受けた流れからドル売りが優勢。植田総裁のコメントもあり132.27まで下落する場面もあったが、決定打に欠ける中、結局オープンと同水準の132.47レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、132.47レベルでオープン。クロス円の下落を伴って132.18まで売られるも、午後に米3月小売売上高の発表を控え、132.75まで回復。結局132.60レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は一時、132.18まで下落する場面もあったが、132円台半ばでの方向感乏しい推移が続いた。早朝には各米大手銀行が本年度の第1四半期決算を発表し、利益が予想を上回った事が好感され、ドル買いが優勢となり、小幅上昇後、132.60レベルでNYオープン。朝方発表された米3月小売売上高(前月比)が予想を下回り、発表直後は132.20まで売られるも、コアの小売売上高が予想ほど悪化しておらず、さらに米3月鉱工業生産(前月比)も予想を上回り、インフレ減速の手掛かりが見当たらなかったためか、すぐにドル買いに転じる。その後、ウォラ-FRB理事が「金融政策は一段の引き締めが必要」と述べたことや、4月ミシガン大学消費者マインド指数や1年期待インフレ率が予想を上回った事がドル買いに拍車をかけ、133.77まで急伸。午後ドル高の流れが継続し、133.84まで高値更新。週末ムードで次第に小動きとなり、133.75レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは1.10台半ばでスタート。ECBラガルド総裁がユーロ圏のインフレ率は低下が続くとの見方を示すも、市場は反応薄、その後1.1055レベルでNYオープン。朝方は一連の米経済指標の内容を受け、米金利上昇とともにドルが買われ1.0973まで下落。午後は何度か1.1000を付けようとする場面も見られたが、タッチできず。その後、静かな動きとなり、結局1.0988レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 原田・木村

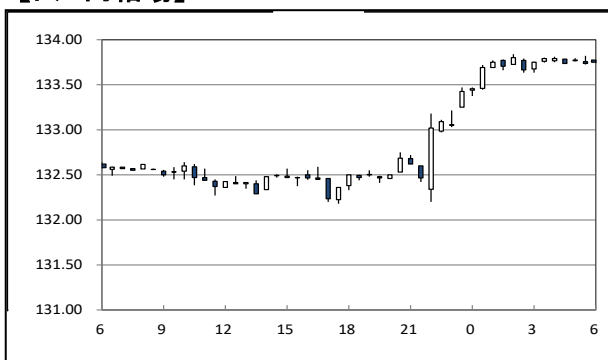
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
4月14日	21:30	米 小売売上高速報(前月比)	3月 -1.0%	-0.5%
	22:15	米 鉱工業生産(前月比)	3月 0.4%	0.2%
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	4月 63.5	62.1
4月15日	00:00	欧 ラガルドECB総裁 講演	ユーロ圏のインフレ率は低下が続く	

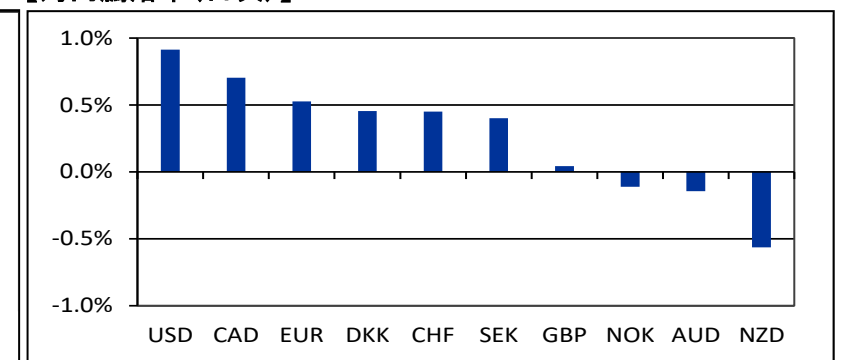
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
4月17日	21:30	米 NY連銀製造業景気指数	4月 -18.0	-24.6

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	133.00-134.50	1.0900-1.1050	145.00-148.50

【マーケット・インプレッション】

先週末のドル円は米国時間でのドル買いによって上昇した。発表された米小売売上高のヘッドラインこそ弱い結果となったものの、コアは予想比上振れ。続く経済指標もタカ派に傾くような結果に、米金利は上昇。ドル円もつれ高となり、133円後半まで買われる結果となった。本日のドル円は133円台後半での上値の重い推移を予想。先週末の米小売売上高は、コア指数こそ予想を上振れたものの、ヘッドラインは2か月連続での減少。コア指数もガソリン価格の下落が要因であり、足許では再びWTIが80ドル台を付けている現状から、来月にはこの効果は剥落すると思われる。係る状況下、米経済はゆっくり減速してきていると思われ、ドル買い需要も一巡するところだろう。こと今週にフォーカスするのであれば、材料となるのは水曜日に発表される米地区連銀経済報告くらいであり、動意に欠ける展開が続くと予想する。